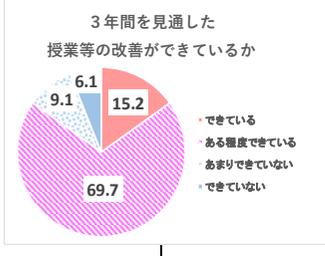
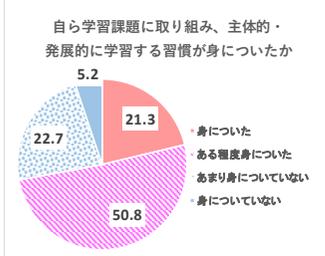
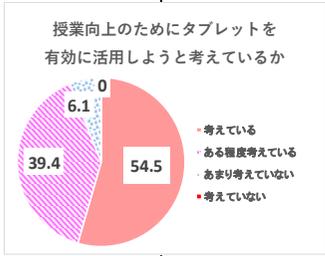


令和2年度 学校経営計画に対する中間自己評価

石川県立輪島高等学校

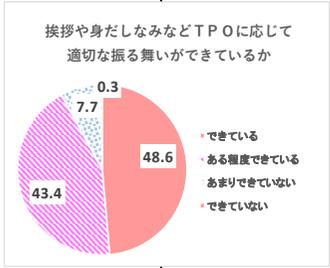
重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	判定基準	成果・課題・改善策
<p>1 学びがあり進路実現できる学校</p> <p>①習熟度別授業、AL型授業を充実し、授業力を向上する。</p>	<p>* 習熟度別授業 * 個別添削指導 * AL型授業のための研修会</p>	<p>授業力向上のためにタブレットを有効に活用しようとする教員の割合が</p> <p>A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満</p>	<p>94% A</p>	<p>成果：研究授業や校内研修会、またプロジェクターなどの環境整備によって、ほとんどの教員が授業におけるタブレットの有効活用に取り組んでいることが示された。</p> <p>課題：AL型の授業や生徒の探究活動におけるタブレットのより有効な活用法を研究開発していくこと。</p> <p>改善策：校内及び校外での先進的な取り組みの研修を行う。具体的には、校内においては互見授業の実施、校外においては「Findアクティブラーナー」サイトを利用した授業研究を行う。</p> <p style="text-align: right;">教務</p>
<p>②生徒が主体的、能動的に学ぶ姿勢を育成する。</p>	<p>* 習熟度別学習課題 * 学習時間調査 * 個別面談</p>	<p>自ら学習課題に取り組み、主体的・発展的に学習する習慣が身についたと考える生徒の割合が</p> <p>A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満</p>	<p>72% B</p>	<p>成果：休校期間中のオンライン学習の実施や、習熟度別の学習課題の実施により、生徒が主体的に学習する意欲が高まった。</p> <p>課題：学習時間調査における平均学習時間が増えていないこと。</p> <p>改善策：学習時間調査の結果を分析した上で、よりよい調査方法、また結果提示の方法を工夫し、生徒の学習意欲が高まるようなものに改善していく。</p> <p style="text-align: right;">教務</p>
<p>③3年間を見通した組織的な教科指導と進路指導の実践を図る。</p>	<p>* 3年間を見通した指導計画の作成とPDCA実践 * 指導の記録 * 個別面談</p>	<p>3年間を見通した授業等の改善ができたと考える教員の割合が</p> <p>A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満</p>	<p>85% B</p>	<p>成果：模擬試験の結果分析等を踏まえ、各学年・各教科で付けるべき力を把握し、授業へのフィードバックを積極的に行う教員が増えてきている。</p> <p>課題：学年団を中心に行っている模擬試験の結果分析や、各学年が今後克服すべき課題を、より多くの教員が共有すること。</p> <p>改善策：職員会議での分析結果の伝達に加え、今後実施する予定の各学年上位者検討会等を通じ、より多くの教員が授業改善への意識を高められるよう働きかけていく。</p> <p style="text-align: right;">進路指導</p>



令和2年度 学校経営計画に対する中間自己評価

石川県立輪島高等学校

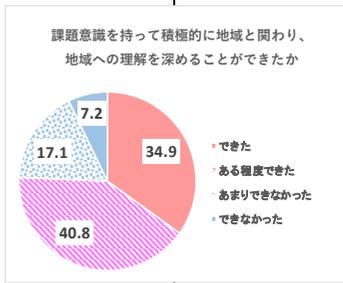
重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	判定基準	成果・課題・改善策
2. 人間力を向上できる学校 ①学校行事を通し、仲間を大切にし、他者を思いやる心を育成する。 ②課外活動を通し、主体的、能動的に行動できる生徒を育成する。	* チャレンジウォーク * 文化祭 * 体育祭 * 球技大会	学校行事への取組を通し、思いやりをもって他者と協働することができたと考える生徒の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	体育祭後に評価	成果： 課題： 改善策： <div style="text-align: right; border: 1px solid black; padding: 2px;">生徒会</div>
	* 部活動 * ボランティア活動	部活動やボランティアなどの課外活動にすすんで取り組み、自ら考え行動しその活動に貢献することができたと考える生徒の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	新人大会後に評価	成果： 課題： 改善策： <div style="text-align: right; border: 1px solid black; padding: 2px;">生徒会</div>
③生徒一人ひとりが地域の人たちと係わる中で、積極的に自己研鑽する姿勢を育成する。	* 全校挨拶運動 * 登校指導 * みだしなみ指導	しっかりとした身だしなみの生徒の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	92% A	成果：生徒の自己評価では、92%と肯定的回答の割合が高い。身だしなみ検査での不合格件数の推移を見ると、学校再開直後に176件あったものが、8月にはほぼ半減した。 課題：不合格件数が半減したとはいえ、まだ93件が残っている。引き続き根気強い指導が必要である。 改善策：これまで同様、全職員の連携・協力の元、登校指導や学校生活全体を通しての日常的な声掛けなどを継続していく。 <div style="text-align: right; border: 1px solid black; padding: 2px;">生徒指導</div>



令和2年度 学校経営計画に対する中間自己評価

石川県立輪島高等学校

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	判定基準	成果・課題・改善策
<p>3. 地域と共に成長できる学校</p> <p>①小中学校等との協働研究事業を推進する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> * 地域連携の協議会 * 授業公開と授業参観 * 研究授業と研究協議会 	<p>地域の教育力の向上に関わる協議会、授業参観、研究授業等に参加した教員の割合が</p> <p>A 60%以上 B 50%以上 C 40%以上 D 40%未満</p>	<p>年度末に評価</p>	<p>成果： 課題： 改善策：</p> <p style="text-align: right;">総務 教務</p>
<p>②小中学校との生徒間交流事業を拡充する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> * 挨拶運動 * 中高学習交流 * キャリア教育講演会 * 体験入学 	<p>小中高を超えた生徒間交流事業を通して、達成感や満足感を感じている生徒・児童の割合が</p> <p>A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満</p>	<p>年度末に評価</p>	<p>成果： 課題： 改善策：</p> <p style="text-align: right;">総務 教務</p>
<p>③実践的・探究的地域学習を充実し、地域貢献意識の向上を図り、地域に誇りを持った人財を育成する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> * 地域調べ学習と成果発表 * 朝市出店販売実習 * 地域ボランティア 	<p>課題意識を持って、積極的に地域と関わり、地域への理解を深めることができたと考えられる生徒の割合が</p> <p>A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満</p>	<p>76% C</p>	<p>成果：地域調べ学習や朝市販売実習などの限られた機会を活かし地域への理解を深めることができた。</p> <p>課題：新型コロナウイルスの影響で地域での活動が大幅に制限される中、できる範囲で生徒の活躍の場を企画していく必要がある。</p> <p>改善策：今後、1年生は「ふるさとに学ぶクリエイティブ人材育成事業」での地元起業家との意見交換会、工房や工場での聞き取り調査が予定され、2年生は11月のポスターセッションに向けて地域調べ学習を深めている。また、3年総合学科は「課題研究」の3学期発表会に向けて準備をすすめている。これらの活動を通じて地域理解が深まると期待できる。</p> <p style="text-align: right;">総務 総合学科</p>



令和2年度 学校経営計画に対する中間自己評価

石川県立輪島高等学校

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	判定基準	成果・課題・改善策
<p>4. 多忙化改善を積極的に実現する学校</p> <p>①業務の平準化により一層の効率化を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> * 行事の精選・省力化 * 会議方法の工夫 * 定時退校日の設定 * 時間外勤務時間調査 * 校務分掌の見直し 	<p>主任以外の教員一人あたりの月平均時間外勤務時間が昨年度より</p> <p>A 8%以上減少した B 6%以上減少した C 4%以上減少した D 4%未満の減少であった</p>	<p>A</p> <p>21.1%減少</p>	<p>成果：今年度分については8月末段階の集計であり、休校期間の2ヶ月があるため、主任も含めて全体として2割減となっている。</p> <p>課題：行事の精選や省力化については、かなりの段階まで進んでいる。これからは、個々のタイムマネジメント意識の涵養と、教材研究等のより効率化が必要である。</p> <p>改善策：教科内で個人で作成した教材(動画・PP等、特に作成に時間のかかるもの)については教科内で共有して活用するなど、特に若手教員の負担軽減を図る。</p> <p style="text-align: right;">教頭</p>
<p>②ワークライフバランスを考えた教員の意識改革を図る</p>	<ul style="list-style-type: none"> * 校内研修の充実 	<p>教員対象の校内研修を</p> <p>A 年間40回以上実施できた B 年間30回以上実施できた C 年間20回以上実施できた D 実施が20回に至らなかった</p>	<p>B</p> <p>32回実施</p>	<p>成果：9月末時点でB段階まで到達している。1回の校内研修を30分程度とし、経験のある職員すべてを講師として実施しているため、負担もなく実施できている。</p> <p>課題：今回は休校期間を利用することで、効率よく実施できたが、次年度以降部活動指導や対外行事との日程調整を考慮する必要がある。</p> <p>改善策：受講する若手教員から、「どのような内容を研修したいか」など、アンケートも取りながら実施しており、より効果のある研修となるよう、次年度以降の計画に生かしていく。</p> <p style="text-align: right;">教頭</p>
<p>③タイムマネジメントを生徒に意識させる学習指導、部活動指導の確立を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> * 生徒会、部活動 * 挨拶運動 * HRでの学習指導 * 部活動の計画づくり 	<p>生徒の不注意による遅刻「0」の日数が年間を通して</p> <p>A 100日以上 B 90日以上 C 80日以上 D 80日未満</p>	<p>A</p> <p>約50%</p>	<p>成果：休校により授業日が減少したため、日数ではなくパーセンテージで示すと100日以上と同等の約50%に近い達成率で推移している。</p> <p>課題：遅刻数3回以上の生徒が全体で3人いる。</p> <p>改善策：遅刻累計3回以上の生徒に課す反省文と早朝登校の罰則を継続する。また、未然防止のためにも早い段階での説諭の頻度を増やす。</p> <p style="text-align: right;">生徒指導 教頭</p>